

平成29年

College of Pharmacy, Western University of Health Sciences, USA

との国際交流

五十川晃太郎、尾添将之、神谷侑未、村上菜奈美、石原歩実、千葉有紀子
(グループ1)

平成30年2月12日から2月26日までアメリカ薬学研修を行ってきた。研修中は主に協定校である College of Pharmacy, Western University of Health Sciences (ウェスタン大学薬学部) を訪問し、その他にもアメリカの医療施設を見学した。そけで、我々のグループは、研修先の大学と、見学した施設(地域病院)について報告する。

1. ウェスタン大学薬学部

ウェスタン大学(図1)はカリフォルニア州のポモナ市に位置する医療大学で、薬学部の他にも医学部や看護学部が存在する。大学



(図1)

へは、宿泊先のシャトルバスにて移動した(図2)。薬学部での講義では、アメリカの医療制度や、SOAP ノートの書き方、薬学経済学などについて講義を受けた。講義の内容は特にアメリカの特徴を示すものが多く、アメリカでは薬学部に入るために他の大学を卒業する必要があることや、アメリカの医療保険制度



(図2)



は複雑であること、日本では厚生労働省が行っているような薬の費用対効果に対する計算を、アメリカではそれぞれの薬剤師が行っていることなどを学んだ。

また、教室内は机やモニターの配置が工夫



(図4)

されており（図 3,4）、どこに座っても問題なく授業を受けることができるようになっていた。

2. Citrus Valley Medical Center（シトラスヴァリーメディカルセンター）

シトラスヴァリーメディカルセンター（図



（図 5）

5）は、ウェスタン大学薬学部生の実務実習先となり得る病院である。今回の研修ではこの病院を見学する機会があった。

シトラスヴァリーメディカルセンターは、医療現場での機械の導入が進んでおり、様々な機器を見ることができた。その中、調剤監査機器（図 6）は、ケースに処方箋で紐づけされた薬剤を揃え、ケースごと機械に入れることで、80 種類もの薬剤が 3～20 秒ほどで監



（図 6）

査された。

次に、オムニセルと呼ばれる薬剤管理機器を見学した。オムニセルは、モルヒネやメサドンなどの麻薬および向精神薬などの保管



（図 7）

（図 7）に配置されていた。薬はオムニセルの棚に並べられロックがかけられており、権限を持った薬剤師のみが棚から薬を取り出すことができるシステムとなっていた。

また、アメリカの病院では、患者に渡される薬は一回分ずつ渡されるため、患者が薬を飲み間違えることがないように工夫された。さらに、薬と患者もバーコードで認識されており、ピッキングから患者に渡すまでの流れも、機械によって監査されていた。



以上のように、先

（図 8）

端の医療機器を導入することで手間やミスが削減され、薬剤師が専門の業務に集中できる。そのためアメリカの薬剤師の職能は、日本より専門的で臨床的であるという印象をうけた。